

平成 27 年度 事業報告

I. 法人事業報告

1. 事業の概要

順正学園は昭和 42 年に創立して以来、「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する」という建学の理念に基づいて、私学として特色ある教育、研究体制の充実に努めてまいりました。

また、地域社会及び国際社会にも貢献できる大学づくりを目指し、国際交流、ボランティア、更にはスポーツ交流、産学官連携の事業にも積極的に取り組んできました。

平成 27 年度には、国内の教育提携・高大連携に取組み、新たに 2 校と協定を結び 42 校となりました。また、海外ではリトアニア共和国、ロシアをはじめとして 3 校と協定を結び、教育交流協定校は 20 か国 63 大学 1 美術館となっております。

日本のこどもの 6 人に 1 人が貧困状態にあることを鑑み、順正学園 50 周年記念事業として、ボランティアセンター内に子ども支援部門を立ち上げ、「順正デリシャスフードキッズクラブ」・「順正ジョイフルキッズクラブ」として活動を開始するとともに、2 月には順正学園創立 50 周年記念シンポジウムを開催致しました。

なお、順正学園創立 50 周年記念事業の一環として整備してまいりました、順正記念館(旧順正寮跡)が 3 月初旬に完成し、平成 28 年 4 月 30 日の記念式典のオープンに向け、展示の順を進めています。完成後は、学生への歴史教育と観光資源としての地域開放などを検討し、運用していく予定です。

2. 各設置校の入学者・学生数等の状況

平成 27 年 5 月 1 日現在 単位(人)

	吉 備 国 際 大 学						九 州 保 健 福 祉 大 学				
	学部	通信学部	大学院 博士	大学院 修士	通信大学院 修士	通信大学院 博士	学部	大学院 博士	通信 学部	通信大学院 修士	通信大学院 博士
入学者	434	19	3	19	23	2	484	4	20	20	10
編入学者	29	26	0	0	0	0	6	0	46	0	0
9 月入学者 (再入学含む)	23	—	0	3	0	0	0	0	35	0	0
5/1 学生数	1,873	150	16	43	68	7	1,965	9	636	34	29
内留学生	193	—	1	12	0	0	9	0	0	0	0
卒業者	381	22	—	—	—	—	344	—	140	—	—
修了者	—	—	4	17	26	3	0	2	—	22	5
退学者	57	14	2	3	3	3	82	0	32	3	3
満期退学者	—	—	0	—	—	0	—	0	—	—	—
除籍者	18	4	0	0	0	0	10	0	27	1	0
休学者	57	11	0	0	1	0	21	0	49	3	2
留年者	68	0	2	2	0	0	169	2	106	3	11

単位 (人)

	吉備国際大学短期大学部	順正高等看護福祉専門学校	九州保健福祉大学総合医療専門学校	合計
入学者	0	87	81	1,206
編入学者	0	0	0	107
9月入学者 (再入学含む)	0	0	0	61
5/1 学生数	12	257	250	5,349
内留学生	0	0	0	215
卒業者	12	71	72	1,042
修了者	—	—	—	79
退学者	0	17	20	239
満期退学者	—	—	—	0
除籍者	0	4	0	64
休学者	0	3	11	158
留年者	0	6	14	383

II. 法人の概要

1. 理事・監事・評議員

(平成27年5月1日現在)

区分	定員	現員			備考
		常勤	非常勤	計	
理事	9～13	4	8	12	
監事	2	1	1	2	
評議員	27～32	23	7	30	

2. 専任教職員

(平成27年5月1日現在)

	教員数	職員数	備考
法人本部	—	11	出向者等含む
吉備国際大学	159	67	
九州保健福祉大学	134	48	
吉備国際大学短期大学部	7	1	
順正高等看護福祉専門学校	18	7	
九州保健福祉大学総合医療専門学校	17	6	
合計	335	140	

Ⅲ. 各事業の概要

1. 設置関係（平成28年4月からの変更）

入学定員及び収容定員の充足状況等を検証し、平成28年度から以下の変更を行った。

吉備国際大学

社会科学部	スポーツ社会学科	3年次編入学定員	10名	廃止
保健医療福祉学部	社会福祉学科	入学定員変更	50名	→ 40名
〃	〃	3年次編入学定員	20名	廃止

※吉備国際大学 学部全体として、収容定員100名の減少

吉備国際大学 大学院

（通信制）環境リスクマネジメント研究科

環境リスクマネジメント専攻 修士課程 10名 募集停止

※吉備国際大学 大学院（通信制）全体として、収容定員20名の減少

九州保健福祉大学

社会福祉学部 子ども保育福祉学科 50名 募集停止

※九州保健福祉大学 学部全体として、収容定員200名の減少

2. 入試・広報活動

(1) 入試関係

2016.5.1(現在)

ア 志願者・入学者の状況

(単位 人)

区分	設置校	志願者	入学者	入学定員	充足率
一年次	吉備国際大学	957	403	610	66.1%
	九州保健福祉大学	1,109	421	515	81.7%
	順正高等看護福祉専門学校	105	54	120	45.0%
	九州保健福祉大学 総合医療専門学校	200	77	75	102.6%
	計	2,371	955	1,320	72.3%
編入学	吉備国際大学	3	3	30	10.0%
	九州保健福祉大学	7	5	14	35.7%
	計	10	8	44	18.2%
大学院	吉備国際大学	21	20	59	33.9%
	九州保健福祉大学	4	4	4	100.0%
	計	25	24	63	38.1%
(通信) 大学院	吉備国際大学	43	41	75	54.7%
	九州保健福祉大学	18	18	35	51.4%
	計	61	59	110	53.6%
合計		2,467	1,046	1,537	68.1%

イ 設置校別の受験・合格・入学の状況

(ア) 吉備国際大学

(単位 人)

学部	社会科	保健医療福祉	心理	地域創成農	アニメ	外国語	合計
入学定員	160	180	90	60	40	80	610
志願者数	154 (36)	486 (292)	103 (53)	122 (30)	21 (4)	71 (29)	957 (444)
受験者数	151 (36)	467 (276)	103 (53)	118 (28)	19 (4)	68 (27)	926 (424)
合格者数	151 (36)	376 (233)	101 (53)	117 (28)	19 (4)	68 (27)	832 (381)
入学者数	111 (20)	162 (83)	48 (26)	41 (7)	13 (4)	29 (11)	403 (151)

() は女子内数

(イ) 九州保健福祉大学

(単位 人)

学 部	社会福祉	保健科	薬	生命医科	合計
入学定員	105	170	180	60	515
志願者数	148 (49)	227 (101)	545 (300)	189 (110)	1,109 (560)
受験者数	147 (48)	224 (100)	528 (294)	182 (105)	1,081 (547)
合格者数	146 (48)	222 (99)	489 (277)	161 (94)	1,018 (518)
入学者数	81 (24)	99 (43)	172 (103)	69 (34)	421 (204)

() は女子内数

(ウ) 順正高等看護福祉専門学校

(単位 人)

学 科	看護科	介護福祉学科	合計
入学定員	80	40	120
志願者数	100 (25)	5 (1)	105 (26)
受験者数	83 (23)	5 (1)	88 (24)
合格者数	80 (21)	5 (1)	85 (22)
入学者数	50 (15)	4 (1)	54 (16)

() は男子内数

(エ) 九州保健福祉大学総合医療専門学校

(単位 人)

学 科	看護	鍼灸	合計
入学定員	60	15	75
志願者数	188 (32)	12 (9)	200 (41)
受験者数	178 (31)	12 (9)	190 (40)
合格者数	98 (11)	12 (9)	110 (20)
入学者数	66 (8)	11 (8)	77 (16)

() は男子内数

(2) 広報関係

ア オープンキャンパス

設置校	開催回数	参加人数
吉備国際大学	8	1,699
九州保健福祉大学	3	1,287
順正高等看護福祉専門学校	8	146
九州保健福祉大学総合医療専門学校	8	190

イ その他

(ア) 学園（各設置校）の魅力と入試情報の発信

年間を通じて、高等学校訪問、進学説明会、などに取り組み、学園（各設置校）の魅力学科改編に関する情報、入試要項など学生募集に関する情報を受験生、保護者、進路関係者などに周知した。

(イ) 海外留学生の確保

海外支局長が中心となり、中国・韓国・ベトナムなどからの留学生の確保に積極的に取り組んだ。

その結果本学園における平成 28 年度各設置校の留学生の在籍・入学状況は次のようになった。

(単位 人)

設置校	区分	別科	1年次	2年次	3年次	4年次	大学院	合計
吉備国際大学	在学生数							
	入学者数	0 (0)	17 (11)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	19 (11)
九州保健福祉大学	在学生数							
	入学者数		4 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (4)
吉備国際大学短期大学部	在学生数							
	入学者数							
合計	在学生数							
	入学者数	0 (0)	21 (15)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	23 (15)

※ () 数字は平成 28 年度 支局長推薦入学者数

3. 平成 27 年度・順正学園ボランティアセンター活動報告

順正学園ボランティアセンターは、学園総長をセンター長とし、下部機関として各設置校にボランティアセンターを設置し、学長、校長が各々センター長となり活動を行いました。活動を支援して頂くに際しては、企業、教職員、岡山西ロータリークラブ、高梁市などから寄付や助成金を頂きました。

また、学園創立 50 周年記念事業の柱として、本年度から「子ども支援セクション」を増設し、子どもを抱えた生活困窮世帯に対して、学園が中心となり食料支援を行う「順正デリシャスフードキッズ (DFK) クラブ」と、学習支援を行う「順正ジョイフルキッズクラブ」の活動を開始しました。

吉備国際大学、同短期大学部、順正高等看護福祉専門学校においては、以下 5 つの分野に分かれて活動を行いました。

①子ども支援セッション

【順正DFKクラブ】

- ・ 11 月から試験運用開始。12 月 4 日に出発式を実施し順次配送。フードドライブも順次実施。発送作業には学生がボランティアとして参加
- ・ 以下、年度内の食料品発送状況

回	月 日	個 数	新 規	中 止	大 (5人以上)	中 (4人)	小 (3人以下)	米 (kg)	食 材 (kg)	計 (kg)
1	11月5.6日	24	24		7		17	82.5	73.6	156.1
2	19.20日	30	6		7	3	20	115.5	149.6	265.1
3	12月3.4日	31	1		7	4	20	120.0	119.4	239.4
4	17日	42	12	1	7	7	28	139.5	137.5	277.0
5	1月7日	52	10		8	10	34	195.0	114.5	309.5
6	21日	55	3		8	12	35	199.5	144.2	343.7
7	2月4日	39	7	23	5	13	21	148.5	99.4	247.9
8	18.19日	71	32		10	18	43	267.0	157.0	424.0
9	3月3日	87	16		14	22	51	333.0	131.1	464.1
10	17日	94	8	1	16	23	55	345.7	166.9	512.6
	合 計	525	119	25	89	112	324	1,946.2	1,293.2	3,239.4

②災害復興支援セッション

- ・ 東日本大震災被災者支援ボランティアの継続（ボランティア情報の収集等）
- ・ ネパール大地震救援募金の実施

③地域貢献セッション

- ・ 高梁市、地元住民等からの要請に応えたボランティア活動の実施
- ・ 吉備国際大学地の拠点整備事業の一環として、教務課・地域連携室と連携しつつ、地域貢献ボランティア活動を積極的に実施。実人数 74 人の学生（高梁・南あわじ志知両キャンパス）が、43 か所でボランティアに参加
- ・ 地域住民を対象にした「わっしょい高梁!!のびのびサロン」の開催
- ・ 岡山市、高梁市などでの短大部学生による美容ボランティアの実施
- ・ 児童を対象にした手作り遊び教室、清掃活動、小学生登下校時の声かけ運動など

④国際貢献セクション

- ・国際協力実習に8人の学生が参加し、インド（プネ市カルベ社会サービス大学院等）におけるボランティア活動の実施（公設国際貢献大学校で5人が参加して事前研修会を開催。同実習に携帯するレクリエーションキット購入。及び絵本等の収集）

⑤障がい学生支援セクション

- ・聴覚障害学生（作業療法学科4年、1年の計2名）に対する授業時のノートテイク実施
- ・ノートテイク養成講座の開催
- ・入学宣誓式・学位授与式など学内行事でICTを活用した情報支援
- ・遠隔システムを利用したパソコンノートテイクの導入

また、上記の活動と連携して下記の活動も実施しました。

関係機関・団体との連携

- ・岡山県ボランティア・NPO 活動支援センター、国際ソロプチミスト高梁などを通じて、県内他大学ボランティアセンター等との連携活動
 - ・吉備国際大学地の拠点 地域貢献ボランティアフォーラム（第16回ボランティア実践発表シンポジウム）を開催。特別講演のほか、大学生や高梁高校、高梁市民らが発表
 - ・ロータリークラブ、ライオンズクラブ、国際ソロプチミストとの連携活動
 - ・高梁市をはじめ、上記団体等を通じた全国規模の学生スタッフの研修会、交流会への参加
- 広報・啓発
- ・27年度新入生向けボランティアセンター通信の発行
 - ・ボランティアセンター及び順正DFKクラブともに新規HPに改装
 - ・ボラセン専用フェイスブックの開設

九州保健福祉大学においては、大学に寄せられる様々なボランティア要請（延べ約200件）に対応して、延べ550人以上の学生がボランティア活動に参加しました。

ボランティア要請元は延岡市教育委員会、延岡市社会福祉協議会、特別老人養護施設、幼稚園など多岐にわたり、延岡市内外において本学のボランティア活動に大きな期待が寄せられていることがうかがえます。

平成24年度よりボランティア活動が単位化されていますが、単位取得とは関係なくボランティア活動に参加した学生もいました。

①子ども支援セクション

【順正DFKクラブ】

- ・学生ボランティアが寄贈食料品などを受け取りに出向く。学内の教職員らも食料品を寄贈。フードドライブも順次実施

【順正ジョイフルキッズクラブ】

- ・12月～2月にかけて計5回に渡り、各約10名の学生が約10名の中学生と一緒に勉強を行い、学習支援を行った。終了後は昼食を一緒に食べながら交流した。

4. 国際交流関係

A. 教育交流協定の締結

1. 2015年5月13日 リトアニア共和国 シャウレイ大学との教育交流協定締結
2. 2015年6月10日 台湾 到理科技大学との教育交流協定締結
3. 2015年8月3日 タイ タマサート大学との教育交流協定締結
4. 2015年8月24日 タイ モンクット王工科大学北バンコク校との教育交流協定締結
5. 2015年9月24日 米国 ニュージャージーシティ大学との教育交流協定締結
6. 2016年1月19日 ロシア ロシア国立アカデミー人文大学教育交流協定締結

B. 教育交流協定校への学生派遣

1) 短期研修

大学名	期 間
米国 ライト大学	2015年8月11日(火)～2015年9月4日(金) 吉備1名
米国 フィンドリー大学	2015年8月11日(火)～2015年9月4日(金) 吉備2名
ドイツ SRHハイデルベルグ専門大学	2015年10月4日(日)～2015年10月10日(土) 吉備1名
台湾 南台科技大学	2015年8月17日(月)～2015年8月29日(土) 吉備1名
フィリピン 国立大学ロスバニョス校	2015年9月14日(月)～2015年9月19日(土) 九保11名と引率教員1名

2) 短期留学

大学名	期 間	人 数
米国 フィンドリー大学	2015年8月～2016年5月	吉備国際大学 1名
米国 ハワイ大学ヒロ校	2015年8月～2015年12月	九州保健福祉大学 1名
	2015年8月～2016年5月	九州保健福祉大学 1名

3) 短期交換留学(吉備国際大学外国語学部のみ)

大学名	期 間	人数
米国 フィンドリー大学	2015年8月～2015年12月	1名
リトアニア シャウレイ大学	2016年1月～2016年6月 派遣中	3名
ドイツ SRHハイデルベルグ専門大学	2015年10月～2016年3月	2名
フィリピン ラサール大学	2015年10月～2016年3月	4名
	2016年2月～2016年3月	9名
中国 中山大学	2015年9月～2016年7月 派遣中	1名
韓国 釜山外国語大学	2015年9月～2015年12月	1名
インド カルベ社会サービス大学院	2015年8月～2015年10月	3名

4) 編入学(九州保健福祉大学のみ)

大 学 名	期 間	人数
フィリピン国立大学ロスバニョス校	2015年4月～4年間 派遣中	3名

C. 教育交流協定校からの学生受入れ

1) 短期研修

大 学 名	人 数	期 間
ブラジル	パナラカトリカ大学	2015年6月29日(月) ～ 2015年7月22日(水)
	パラナ連邦大学	
米国	フィンドリー大学	
	ライト大学	

2) 短期留学(吉備国際大学高梁キャンパスのみ)

大 学 名	期 間	人数
韓国 清州大学	2015年4月～2015年9月	1名
	2015年10月～2016年3月	1名

*南台科技大学、清州大学は相互の交換

3) 短期留学(吉備国際大学外国語学部のみ)

大 学 名	期 間	人数
中国 中山大学	2015年4月～2015年8月	4名
中国 湖南大学	2015年4月～2015年8月	5名
英国 サンダーランド大学	2015年4月～2015年8月	2名
台湾 致理科技大学	2015年10月～2016年2月	1名

D. ライト大学仕事体験プログラム学生受入れ

期 間：秋学期 1名

5. 施設・設備関係

27度の主な施設・設備関係は下記のとおりです。

【主な施設・設備関係一覧】 (建物・構築物・車両等)

就業管理システム	11,900(千円)
岡山駅前キャンパス隣接地取得	34,650(千円)
吉備国際大学岡山キャンパス隣接地取得	6,726(千円)
順正寮保存修復工事	84,516(千円)
吉備国際大学第2体育館LED化工事	4,600(千円)
九州保健福祉大学クラブハウス整備	8,600(千円)

6. 財務状況

1) 平成 27 年度 資金収支計算書

当該年度の諸活動の収入及び支出の内容を、支払資金（現金及びいつでも引き出すことができる預貯金）により勘定科目別に集計し、収支のてん末を明らかにするものです。

収入の部		支出の部	
科目	決算額	科目	決算額
学生生徒納付金収入	6,742,604,121	人件費支出	4,657,162,548
手数料収入	77,022,886	教育研究経費支出	1,728,023,671
寄付金収入	20,683,000	管理経費支出	481,389,405
補助金収入	792,928,162	借入金等利息支出	7,961,246
資産売却収入	134,123,000	借入金等返済支出	29,140,000
付随事業・収益事業収入	70,567,573	施設関係支出	159,445,562
受取利息・配当金収入	72,308,265	設備関係支出	128,215,030
雑収入	248,897,603	資産運用支出	104,714
借入金等収入	0	その他支出	256,794,444
前受金収入	1,129,479,558	資金支出調整勘定	△ 99,401,128
その他収入	590,939,877		
資金収入調整勘定	△ 1,677,255,651		
前年度繰越支払資金	12,824,785,317	次年度繰越支払資金	13,678,248,219
収入の部 合計	21,027,083,711	支出の部 合計	21,027,083,711

2) 平成 27 年度 事業活動収支計算書

企業会計の損益計算書に類似するもので、当該年度における諸活動（教育活動、教育外活動、それ以外の活動）に対応する事業活動収入及び事業活動支出の内容と収支の均衡状況を明らかにするものです。

	科目	決算額	科目	決算額
教育活動収支	学生生徒納付金	6,742,604,121	人件費	4,728,470,078
	手数料	77,022,886	教育研究経費	2,628,671,848
	寄付金	18,154,000	管理経費	552,937,562
	経常費等補助金	742,814,162	徴収不能額	33,626,573
	付随事業収入	67,569,220		
	雑収入	265,891,627		
	教育活動収入計	7,914,056,016	教育活動支出計	7,943,706,061
教育活動収支差額				△ 29,650,045
教育活動外収支	受取利息・配当金	72,308,265	借入金等利息	7,961,246
	その他の教育活動外収入	198,000	その他の教育活動外支出	2,604,483
	教育活動外収入計	72,506,265	教育活動外支出計	10,565,729
	教育活動外収支差額			

経常収支差額				32,290,491
特別 収 支	資産売却差額	48,609,000	資産処分差額	89,249,023
	その他の特別収入	65,326,405	その他の特別支出	0
	特別収入計	113,935,405	特別支出計	89,249,023
	特別収支差額			24,686,382
[予備費]				
基本金組入前当年度収支差額				56,976,873
基本金組入額合計				△ 174,446,607
当年度収支差額				△ 117,469,734
前年度繰越収支差額				1,359,113,953
翌年度繰越収支差額				1,241,644,219

2) 平成 27 年度 貸借対照表

3 月末現在の資産、負債、純資産の財産状況を表したものです。

資産の部		負債の部	
科目	27 年度末	科目	27 年度末
固定資産	32,107,160,690	固定負債	3,072,783,344
有形固定資産	22,539,551,458	長期借入金	1,561,040,000
土地	6,608,108,090	その他の固定負債	1,511,743,344
建物	11,967,423,218		
その他の有形固定資産	3,964,020,150	流動負債	1,373,790,806
特定資産	8,583,389,839	短期借入金	29,140,000
その他の固定資産	984,219,393	その他の流動負債	1,344,650,806
流動資産	14,254,562,818		
現金預金	13,678,248,219	負債の部合計	4,446,574,150
その他の流動資産	576,314,599		
		純資産の部	
		科目	27 年度末
		基本金	40,673,505,139
		第1号基本金	39,139,670,419
		第2号基本金	835,834,720
		第4号基本金	698,000,000
		繰越収支差額	
		翌年度繰越収支差額	1,241,644,219
		純資産の部合計	41,915,149,358
資産の部合計	46,361,723,508	負債及び純資産の部 合計	46,361,723,508

I. 平成27年度教学基本方針

吉備国際大学では、目標を設定して、教育、研究および社会貢献に関する各事業に取り組む。特に教育面では、次のことを今年度の基本方針とする。

- (1) 建学の理念を踏まえ、学部および研究科の3つのポリシー（ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー）を再確認し、教育研究の質の向上を一層図り、有為な人材の養成に努める。
- (2) チューター制度により、教員は、学生との絆を大切に、吉備（KIBI）アプローチと称している「懇切丁寧で、学生一人ひとりに応じた、基礎・基本を重視して、創意工夫を凝らした」指導を全力で行い、学生の自主的な学修を促し、退学者の減少に努める。
- (3) 年次進行中の地域創成農学部、外国語学部およびアニメーション文化学部をはじめ各学部の教育研究活動の充実化に取り組み、各学科の持てる魅力を恒常的に外部へ発信し、入学者の確保に努める。
- (4) 将来に対する目標設定と日々の着実な学修の重要性を教示し、就職率と国家試験等の合格率の向上に努める。

II. 各事業の概要

→ 平成27年度の第三者評価について

吉備国際大学では、公益財団法人日本高等教育評価機構の平成27年度大学機関別認証評価を受審した結果、「日本高等教育評価機構が定める大学評価基準に適合している」と認定された。

1. 教育関係

- (1) 新入生の学修スタートを支援することにより退学者の減少を図る。

→ ①新入生がスムーズに大学の学修スタートが切れるように、オフィスアワーやラーニングサポートセンター「キビキビサポートコーナー」の活用および、教務課による1年間を通しての履修指導や生活指導をおこなった。

具体的には、ラーニングサポートセンターを学生が活用しやすいように、イベントの開催や「キビキビサポートコーナー」の相談内容の見直しを行ったが参加学生が少なく、学生への周知が今後の課題である。

②学修環境の整備を目的として新設したラーニングコモンズを、グループ学修や予習復習等の自習時間等に利用することで、学修時間の増加や学修能力の向上を図るため、2号館図書館のラーニングコモンズを開設したところ、延べ3万人以上の学生が学修スペースとして利用した。

更に、今年度は、心理学部学生の学修スペースとして10号館（心理学部棟）の図書館にラーニングコモンズを開設した。

- (2) GPA やラーニングポートフォリオの導入により、学修の可視化による学修意欲の向上と教育の質の向上を図る。

→ ①学科の3つのポリシーに基づいた科目ごとの教育目標とその達成度の評価を厳格におこなうことで、GPAの精度の向上と学修指導法への活用方法を確立することを目的に、8月にGPAに関する規程

を制定し、GPA を活用した指導の手引や GPA を活用した指導方法 Q&A を作成した。

GPA の精度向上のためには、教員自身意識改革と学修指導方法（ルーブリック評価法）の確立等に今後取り組む予定である。

②演習科目にラーニングポートフォリオを導入し、学生の4年間を通じた成績成果を可視化できるようにすることにより、学生の学修意欲と学修能力の向上を図ることを目的に、今年度の1年次生より基礎演習（基礎演習が無い学科は演習に当たる科目を設定）にラーニングポートフォリオ（本学では、サポートカードと呼ぶ）の導入を開始した。今後このサポートカードを4年間蓄積することにより、学生個々の学修成果を可視化していく。

③IR 活動を通じて、学科ごとの長所を明確にすることで、学生一人ひとりが在籍する学科にプライドを持って卒業する取り組みをおこなうことを目的に、8月に学長および副学長、事務局長を委員として、IR 推進委員会が発足した。今後は、この委員会を中心として各部署の情報を収集・分析し IR 活動を推進して行く予定である。

(3) 平成 29 年度に新たに実施する全学共通教養カリキュラム改正に向けた取り組みをおこなう。

→ 平成 27 年度より全学に先駆け、保健医療福祉学部社会福祉学科において、全学共通教養カリキュラムをスタートさせ、「地域学概論」を地域の課題とその解決に向けた取り組みについて学ぶ科目とし、地域ボランティアを実際に行った先輩学生や高梁市から講師を招いて開講している。

①キャリア開発Ⅱを活用した地域貢献ボランティア活動を全学生が取り組むような仕組みと魅力づくりをおこなっていく。

地域ボランティアを実施している学生は、昨年度 46 名に対し今年度は、76 名に増加したが、当日連絡もせず欠席する学生により事業者に迷惑を掛けたため、今後は事前教育の徹底をおこなっていく予定である。

②昨年度に引き続き社会人基礎力を身に付けるための教養教育の取組みの一環として、資格試験等を取り入れた科目を充実させることを目的とし、日本人学生には日本語検定試験、留学生には日本語能力試験 N2 の対策講座を開講した。更に、情報教育では、マイクロソフトオフィススペシャリスト (MOS)、TOEFL、TOEIC などの受験を勧めているが、全体的に受験する学生が減少傾向にあるため今後の対策が必要である。

(4) 留学生の教育指導体制の充実を図る。

→ ①留学生の日本語能力向上を目的とし、日本語能力試験 N2 を取得して卒業させることを目的に平成 27 年度の 1 年次生より日本語能力試験 N2 取得を義務付け、授業科目以外でもゼミやチューター教員により日本語の指導をおこない、徐々にではあるが成果が出来てきた。今後は更に、対策講座を増加し、N2 合格者を増やす予定である。

②ラーニングサポートセンターにて日本語能力試験 N2 の対策講座を日本語教員により実施した。日本語科目担当教員により、月、水、金曜日にラーニングサポートセンターで日本語能力試験 N2 対策講座を実施しており、20 名以上が受講した。

・ 2015 年 7 月実施 結果

N1 受験者	62 名	認定者	11 名	認定率	17.7%
N2 受験者	66 名	認定者	12 名	認定率	18.2%

・ 2015 年 12 月実施 結果

N1 受験者	32 名	認定者	0 名	認定率	0%
N2 受験者	35 名	認定者	4 名	認定率	11.4%

(5) 在学中の教育成果を反映する指標として、国家試験等の合格率などを設定し、この数値を高める。

- ①国家試験等合格率の向上（数値目標：保健医療福祉学部＝100%・社会福祉学部＝全国平均＋ α ）を目指し、各種演習や補講をおこない、学生1人ひとりの学力に応じた指導をおこなった。
国家試験合格率については、各学科ともに授業時間以外に補講を実施し、大学全体の取組みとして図書館やラーニングコモンズとラーニングサポートセンターの学習施設の開館時間の延長などに取り組んだが、結果は低調であり今後の対策の見直しが必要となった。

2. 通信教育関係

(1) 入学者動機を把握し、効率的な募集活動を実施し入学者数の増加を図る。

- ①入学者アンケートにより入学動機を調査した結果、社会人の入学動機は本学ホームページによることが判明し、ホームページの見直しをおこなった。更に、通信教育協会主催の説明会の内容の見直しや、大学独自の入試説明会を開催するなどの広報活動を実施した。
また、文部科学省の補助事業である職業実践力育成プログラム（BP）に「知的財産履修プログラム」を申請したが、採択までには至らなかったが、東京会場でのスクーリング取組みについて広く広報できたことで通信制大学院の入学者数増につながった。
しかし、通信制の学部では科目等履修生は増加したものの正科生の増加とはならず、今後の対策として、更に来場者の多い説明会場への特化や広報ツールを厳選し効率的な広報を実施して行く予定である。

(2) 学生の不満を解消することで退学者を出さない体制を構築する。

- 教職員の連携を密にすることにより学生ニーズを共有し、学生の不満の解消に早期に取り組むことで退学者0名を目指したが、入学者の学修環境の違いや学修能力の格差も大きく、単位修得の可否がそのまま学生の不満となり、結果として退学へとつながった。
担当者を通信教育協会主催の研修等へ参加させ、学生対応への知識向上を図っているが、学生対応については未だ教職員間に格差があり、今後は学生個々への対応についてもその都度教職員間の意識統一が必要であり、FDとSDの合同開催も今後の課題である。

3. 研究関係

個々の教員及び研究組織による研究の活性化を促進する。

(1) 連携協定を締結するなどして、産業界・他大学等との連携強化を図る。

- 岡山県では、産業界との連携協定は進展していないが、淡路の地域創成農学部で企業との連携に向け取り組んでいる。COC+で岡山県立大学を中心として岡山COC+推進協議会を結成した。

(2) 共同研究費を活用して研究の活性化を図り、科研費の新規採択件数を10件以上とする。

- 今回48件の新規申請があった。新規採択件数は去年の5件から7件に増加したが10件には届かなかった。

(3) 3 附属研究所+地域医療福祉センターを活用して大学院組織の連携強化と教育研究活動の活性化を図る。

→ 平成 27 年 9 月 12 日 (土) に高梁医師会共催で地域医療福祉センター開所記念講演会+合同シンポジウムを開催した。

(4) 文部科学省から示された公的研究費の管理・監査のガイドラインや新しい倫理指針の学内周知と教育・研修を実施する。

→ 文部科学省の新ガイドラインに沿って学内規定の改定、教育・研修を行った。

(5) JST の教員研究業績登録システム researchmap を活用した教育研究情報の公開を推進する。

→ 4 月末までに前年度の教育研究情報を researchmap に登録した。

4. 就職・進路指導計画

①学生一人ひとりの就職活動状況の把握に努め、就職率 100% を達成する。

→ 学生の就職活動状況を早期に把握するため、学内に看板を設置する他、進路決定届を提出していない全ての学生に電話連絡を行い把握に努めた。この様な支援活動を通じて、未内定の学生へ進路希望を聴き出し、求人情報を提供し、個々の学生に適した就職活動の支援を行った結果、平成 27 年度の就職内定率は 95.9% となった。

②必要に応じて随時、キャリアサポート委員会を開催し学内の情報共有に努める。

→ 平成 27 年度のキャリアサポート委員会は 4 回開催し、就職状況についての情報交換や問題解決に取り組んだ。さらに、委員に求人情報及び各種行事等を WEB メールで配信し、各学科内において情報共有を図った。

③学生が希望する進路決定に繋がる支援をおこなう。

→ 入学年次に「キャリア開発Ⅰ」において、基礎学力を自ら理解し、就職を意識させることを目的に一般教養模擬試験を行い、試験結果のフォローガイダンスを行った。3 年次には「キャリア開発Ⅲ」において、教養科目のなかに実践的な就職支援を展開した。その他、将来の職業選択肢を考えるため職務適性検査や就職活動には必須であるエントリーシート攻略テストを行った。また、履歴書の添削・面接練習・小論文指導・グループディスカッション等を継続的に行った。

⑤充実した就職懇談会の開催と新規就職先の開拓に取り組む。

→ 企業開拓は、各種団体が主催する企業と大学との就職セミナー・就職懇談会・学内就職面談会や企業訪問を通じて、多岐にわたる業種の情報収集に取り組んだ。

また、本学園の定例事業として平成 27 年 10 月 3 日にメルパルク岡山において、企業・病院・施設の採用担当者を集め順正学園各設置校合同の就職懇談会を開催し、昨年度の 115 事業所 203 名の参加に比べ、本年度には 153 事業所 243 名の参加が得られ、新規就職先が大幅に増加し

たことにより学生の就職意識の向上に結び付いた。

⑥地方企業等への就職率及びインターシップ実施率の向上に努める。

→ 岡山県内の事業所へ就職面談会及び就職懇談会並び学内の個別説明会等への参加を積極的に呼びかけ、県内の就職率向上を図った。

また、インターシップ実施率の向上のため、県内企業に対して積極的に新規開拓を行った。

5. その他の事業

教員・事務職員・学生による一体的な取り組み

① キャンパス内各建物の照明について LED 化を推進する。

また、空調機の稼働、節電、節水等の啓蒙を推進する。

→ 2020 年度迄に水銀を含む商品が全廃される（水銀に関する水俣条約）ことを受けて、水銀灯を使用する学内体育施設の LED 化を今年度から開始し、春学期は学園第二体育館の照明を LED 化した。また、従来の蛍光灯使用部分についても、7 号館全階廊下部分、6 号館地下、キャンパス内室外灯等の LED 化を推進した。

大学全体の省エネ推進活動として、「環境マネジメントシステム（EMS）」活動を実施し、環境負荷削減の取り組みを行った。特に電力については、昨年から推進している施策の一環として、購入電力を従来の電力会社から、新電力販売会社（オリックス）に変更して、料金の削減（1.5% 減：2,500 千円）に効果を上げた。

また、2ヶ月毎に「省エネレポート」を作成・掲示して光熱水費の管理・啓蒙を行った。

②あいさつ、清掃、交通を中心としたマナー教育を推進する。

岡山キャンパス、南あわじ志知キャンパス、高梁キャンパスの学生間の交流を深め、スポーツ大会・学園祭等のイベントに積極的な参加ができるように企画する。

→ あいさつ運動をボランティア学生と FC 吉備国際大学シャルムが高梁駅前毎月月曜日に実施。地域清掃活動は月 1 回程度行っている。

清掃活動は、男子サッカー部の島原、神戸合宿にてホテル付近を早朝に清掃活動を行った。交通マナーは、本年度自転車通学生を対象に高梁警察署からビラ 500 枚を用意しボランティア学生が配布し指導を行った。

高梁キャンパスでのスポーツ大会（5月9日・10日開催）に岡山キャンパス、南あわじ志知キャンパスの学生が多数参加し交流を行った。また、南あわじ志知キャンパスでのスポーツ大会（4月25日開催）に岡山キャンパス、高梁キャンパス体育部会が参加し学生間の交流を深めた。

高梁キャンパスでの学園祭（10月31日、11月1日開催）に岡山キャンパス、南あわじ志知キャンパスの学生が参加し模擬店を出店し、キャンパス間の学生交流を行った。

③留学生と日本人学生の交流機会を増やし、学内における国際交流活動を活性化させる。

→ 留学生と日本人学生の交流を深める為、7月18日に交流旅行（備前焼体験、閑谷学校見学）を実施した。交流旅行については、12月12日に香川県でのうどん作り体験、金比羅宮見学を実施した。

学内における交流会としては、留学生会が中心となり7月13日、11月30日、12月14日にゲームでの交流会、1月19日には旧正月を祝う会交流を実施した。

また、10月17日に開催した国際交流会は、本学学生（留学生と日本人学生）のみならず、高梁市民にも参加頂いての国際交流活動となった。

④各種行事、イベントに関して、在学生、同窓会、教員、事務職員が一体となった取り組みを行う。

→ 10月13日に在学生と教員、事務職員、高梁商工会議所と合同で、休耕田を利用した菜の花の種蒔きを実施した。翌年4月下旬には開花に合わせて鑑賞会を実施した。また、11月26日には文化都市づくりの一環として「いやしの香りたたようまち事業」でキンモクセイの植樹に参加した。

12月4日には同窓会と学友会の協力の下に、学内でのクリスマスイルミネーションを実施した。

．平成27年度教育方針

建学の理念を念頭に置いて、その実現に邁進するため、以下の取り組みを実施する。

- (1) 学生、院生の基礎学力向上のために、『すらら』をはじめとして、ラーニングコモンズ、e-learningなどの講義手法を積極的に取り入れ、その効果を検討する。
- (2) 学生と教員との交流を積極的に計画・実行し、中途退学者などの発生を防止する。
- (3) 教職員の日常活動を通じて、医療職種に対する認知度を高める。また、各種国家試験の合格率を向上させるために、諸施策を実行する。

II. 各事業の概要

1. 教育関係

- (1) 昨年度国家試験の結果を分析し、各種国家試験合格率を全国平均よりも上位を目指す。さらに、教育の質・内容を担保しつつカリキュラムのスリム化を行い、余裕をもって国家試験対策に取り組めるように検討を行う。
また、在学生のみならず、既卒者への国家試験合格に向けての指導も継続して行う。

→ 在学生及び既卒生希望者を対象に国家試験対策を実施する。また、大学共通基礎科目を見直すなど、カリキュラムのスリム化を図り、今年度から導入しているCAP制のより適正な運用を目指してカリキュラム改正を行った。

- (2) 大学改革推進委員会とIR推進委員会との連携により大学教育改革に取り組むとともに、学生の教育にあたって、全学的なFD体制を構築し、学生の教育により一層の充実を図る。アクティブ・ラーニング、ルーブリック等をテーマとして、ワークショップ形式でFD研修会を開催する。

→ IR推進委員会では、全学生を対象に学生生活の現状把握を目的として昨年度から学生アンケートを実施している。今年度も調査時期の見直しを行い実施した。今後は、学生が利用する事務部門等にも着目したアンケートの実施を検討している。

また、全学的なFD研修会として、「共通化されたシラバス作成」、「アクティブ・ラーニング(e-learning system)の導入」などをテーマとして実施した。8月26日開催第3回FD研修会では「パフォーマンス評価とルーブリック」について研修を行った。

- (3) 南海トラフで発生が予想されている巨大地震による津波災害を想定し、学生と地域が連携して防災対策に取り組み、日頃から有事に対する備えと危機管理についての意識を高める。

→ 危機管理や防災意識を高める取組みとして、携帯型の「大地震対策マニュアル」を入学生に配付した。また、「社会福祉援助技術演習Ⅳ」では、地震、津波、洪水などの発生を想定した相談援助の授業を行った。

南海トラフ地震を想定して、全学部の学生・教職員による避難訓練を実施した。訓練に

際しては、関係機関に参加を要請して、地域一体となった訓練や災害装備品を活用した資機材の操法訓練・炊き出し訓練等を実施している。

- (4) 多様化する学生の個々の伸長を図るために、動物生命薬科学科において国語に関するリメディアル教育を実施し、教員経験者を外部より教育講師という名称で依頼する。さらに、全学的に e-learning システム『すらら』を導入し、効果的な基礎学力向上を目指し、継続的な検討を行う。

→ 動物生命薬科学科では国語に関するリメディアル教育として1年次対象に国語を前・後期1コマ実施し、教員経験者を外部より教育講師という名称で招聘した。薬学部において『すらら』導入効果を検証した結果、利用学生の基礎学力向上が認められたので、その結果をもとに全学的に『すらら』導入を推進している。在学生だけでなく平成28年度入学生からは入学前教育としても利用を開始した。

- (5) CAP 制導入に伴い、社会福祉学部、保健科学部のカリキュラムの開講年次、開講科目の見直しを行い、平成28年度入学生より適用できるようにする。

→ 社会福祉学部、保健科学部、薬学部においてカリキュラムの検討を実施し、大学共通基礎科目、学部共通基礎科目、専門教育科目の開講年次・開講科目の見直しを行い、平成28年度入学生より適用した。

2. 通信教育関係

- (1) 社会福祉士国家試験受験希望者に対して、通信教育部在学生のみならず既卒者及び通学制在学生・既卒者を対象に「国家試験対策講座」を実施し、合格率の向上を目指す。

→ 国家試験対策講座基礎編を9月に「基礎編」として、受講者33名（通信18名、通学10名、卒業生及び一般5名）、模試のみ受験15名（通信12名、通学3名）で、本学において実施した。また、12月には「直前演習」として、受講者60名（通信23名、通学33名、卒業生及び一般4名）で、本学において実施し、国家試験合格率アップに努めた。

- (2) 授業アンケートを実施し学生の満足度の向上に努めるとともに、前年度に引き続き学習相談会を開催し在学生のサポートを向上させる。

→ 全てのスクーリングにおいて授業アンケートを実施し、改善すべき点を改善し、学生満足度の向上に努めた。

また、在学生のサポートとして、学習相談会を本学、宮崎、鹿児島、熊本、大分、福岡、岡山、北九州及び長崎において、延べ22回開催（これ以外に本学では随時実施）した。

さらに、新入生の学習相談会を福岡、大分、鹿児島及び本学で開催し、スムーズに学習に取り掛かれるようサポートすることができた。

3. 研究関係

教育研究に寄与するため次の事業を推進していく。

(1) 科学研究費等の申請について

積極的に文部科学省の科学研究費をはじめ、競争的資金制度に申請するように奨励する。本年度の新規の科学研究費の採択者は6件であり、継続者を入れると27件、ここ5年間は次の表のとおりである。今後もさらに採択者の増加を目指し奨励していく。

→ 10月23日に全教員を対象とした「研究計画調書作成研修会」を開催した。

(単位：件)

	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
継続	11	8	11	16	21
新規	4	7	10	8	6
合計	15	15	21	24	27

平成28年度に向けた科学研究費応募者は、74名であった。

(2) 個人研究費について

前年度に引き続き、研究業績に呼応した配分方法を実施する。

→ 前年度に引き続き、研究業績に呼応した配分方法を実施した。

(3) 助成経費について

今年度より、新たに研究助成経費と地域創生事業助成経費を設ける。研究助成経費は教員の研究活動の推進を図り、地域創生事業助成経費は延岡市周辺の地域創生事業での社会貢献活動を目的とする。

申請者に対しては公平に審査、配分を行い、研究活動並びに地域貢献活動を推進していく予定である。

→ 研究経費助成については、広く研究活動をサポートするという方向性のもとに申請必要経費を減額し、応募12件すべてを採択した。また、地域創生事業経費助成については、応募6件のうち4件を採択した。

(4) 教育研究業績集について

各教員の教育研究業績をまとめ、大学として一元管理していく。

→ 教員業績情報システムの導入を完了した。

(5) 外部資金導入の促進について

補助事業、委託事業、寄付事業など、他の公的機関からの助成金等を積極的に受け入れ、教育研究を通して社会貢献に寄与する。

→ 現在、受託研究5件、共同研究4件、特別寄付8件を受け入れている。

受託事業としては、国立研究開発法人国立国際医療研修センターの「医療技術等国際展

開推進事業」により、タイ王国タマサート大学及びモンクット王工科大学北バンコク校と教育交流協定を締結し、8月に保健科学部臨床工学科において両大学からそれぞれ約10名ずつの教員研修団を受入れ医療技術研修を行った。

(6) 大型受託事業の推進について

東九州メディカルバレー構想の一環としての受託事業「医工連携事業化推進事業（東九州メディカルバレー総合特区）」を推進する。

→ 国立研究開発法人日本医療研究開発機構「医工連携事業化推進事業」により「人工呼吸器の換気に同期した自動痰除去システムの開発・事業化」に取り組んだ。

4. 就職・進路指導計画

(1) 大学共通基礎科目として、1・2年次に「エンカレッジ教育」、「キャリア教育」を設けているほか、高度専門職人材を養成すべく、各学部において正課カリキュラムの中で、入学時より適宜必要な職業人教育を行う。

→ 7月4日（土）に、薬学科3年生対象の「薬剤師の仕事説明会」を本学にて開催し、38の事業所に参加いただいた。学部の依頼により、10月14日（水）社会福祉学部2年生の基礎演習においてキャリア教育の授業を実施。1年次のキャリア教育の振返りを行い、アルバイトの経験を通して「仕事」「職業」「職務」の理解を促し、働くことの意味を考える機会とした。

(2) 各学科のキャリアサポート委員とともに、就職セミナーや模擬試験、日本語検定等々、年間を通してさまざまな就職イベントを企画し、就活年次早々には、就職ガイダンスを実施して求職登録をさせる。また学生が病院や福祉施設、企業の人事担当者と親密に話のできる「就職面談会」を、社会福祉学部4年生対象に6/27本学会場、保健科学部4年生対象に11/6 福岡会場、11/17宮崎会場で開催する。薬学科5年生対象には3月中に本学薬学部棟で実施する。合同就職面談会以外にも事業所と学生のマッチングの機会として、単独の学内説明会を適宜開催する。さらに、事業所の方々と教員・事務職員との情報交換を行う「就職懇談会」については、加計グループ合同で11/25東京、3/4広島、3/11大阪、順正学園単独で10/3岡山にて開催する。採用いただいた病院・福祉施設・薬局・企業等へは職員が適宜事業所訪問を行い、採用御礼とともに、継続して求人依頼に取り組む。

→ 6月27日（土）に、本学厚生棟において、社会福祉学部4年生、及び動物生命薬科学科4年生を対象とした就職面談会を開催し、67の事業所に参加いただいた。11月6日（金）に福岡市のリーセントホテルにおいて、社会福祉学部および保健科学部（作業療法学科・言語聴覚療法学科）の4年生を対象に、就職面談会を開催し、69の事業所に参加いただいた。11月17日（火）に、宮崎市のウェルシティ宮崎において、社会福祉学部および保健科学部（作業療法学科・言語聴覚療法学科・視機能療法学科）の4年生を対象に就職面談会を開催し、71の事業所に参加いただいた。3月12日（土）には、本学薬

学棟において、薬学科5年生対象の就職面談会を開催し、128の事業所に参加いただいた。加計グループ合同の就職懇談会、順正学園単独の就職懇談会ともに開催した。年間を通して、医療機関・福祉施設を中心に事業所訪問を行い、人事担当者と直接会うことで緊密な関係を維持することに努めた。

- (3) 就職を希望する学生の就職率100%をめざして、個別指導重視の就職支援を一層すすめる。就労意欲の希薄な学生を少しでも減らせるよう、就職部門として可能な限りの連携・協力を行う。また、地方都市にあっては専門性を活かせる優良な職場としての公的機関への就職を促進する。

→ 日常業務の中で、進路相談、履歴書・エントリーシートの添削指導、面接練習などの個別指導のさらなる充実を図った。面談は予約制とし、4月から3月までの1年間で個人面談件数は延べ1193件、1日平均6～7件の面談を職員およびハローワークのジョブサポーターが行った。また支援者としての資質の向上のため、職員間でのケース検討などを通じたOJT及び、ジョブカード講習や各種研修会などのOff-JTへ積極的に参加した。

5. その他の事業

- (1) 宮崎県からの受託事業である「東九州メディカルバレー推進加速化事業医療関連機器の海外展開加速化支援」及び延岡市からの受託事業である「発達支援モデル事業」を推進する。

→ 宮崎県からの受託事業「東九州メディカルバレー推進加速化事業」によりタイ王国の国立ラチャウィティ病院から医療技術者2名を保健科学部臨床工学科で受入れ、一ヶ月間の研修を実施した。また、延岡市受託事業「発達支援モデル事業」は今年度が最終年度となり、昨年度に引き続き取り組んだ。

- (2) 延岡市教育委員会との共催である「のべおか子どもセンター」を開催し、親と子どものコミュニケーションづくりや家庭及び地域の子育て機能に貢献していく。

→ 延岡市の「のべおか子どもセンター事業」に本学が共同参加するようになり10年目をむかえる。今年度も延岡市教育委員会との連携により子育て支援の充実を主眼に地域教育力の向上を目指して取り組んだ。

- (3) 延岡市から依頼を受けて実施している「のべおか市民大学院」を年間11回と本学が開催する公開講座を6回開催する。

→ 延岡市から委託を受けて実施している「のべおか市民大学院」の今年度学外研修は、宮崎市生目の杜にある勾玉作りに参加し、受講生に好評であった。

また、本学が開催する「公開講座」は、今年度114名の受講生が集まり、保健科学部教員の担当のもと受講生からも好評価を得た。

吉備国際大学短期大学部

I. 平成27年度基本方針

吉備国際大学短期大学部は、平成27年度が最終年度として有終の美を飾ることができるように、学生が一人も欠けることなく、学生全員が満足して卒業して行くよう、教職員全員が一丸となって学生に寄り添い学修指導や学生生活指導を実施していく。

II. 各事業の概要

1. 教育関係

①保健科総合美容専攻は、学生全員がエステティシャンやブライダルコーディネーター、ネイリスト等資格の上位資格を確実に取得し卒業して行くように指導する。

→ 各種資格試験の合格に向けて、学生全員が取り組んでおり、100%合格を目指した指導を行い、全員が希望する資格の取得ができた。

今年度メイクアップ技術検定試験が改訂され、在学中に1級までの資格取得が可能となったため、これに対応した教育指導を行い、3人が取得できた。

②教職員が学生一人ひとりに寄り添い、一人の退学者・除籍者も出さよう教育指導から就職指導まで1年間を通して実施して行く。

→ 在学生全員が卒業できるよう、全教職員が学生一人ひとりを指導し、一人も欠けることなく全員が卒業できた。

2. 研究関係

積極的に種々の補助金に申請し、外部資金を獲得した上で研究活動を行う。

→ 外部資金を得ての研究活動には至っていないが、専門分野における研修及び学会へは積極的に参加し自己研鑽に励んだ。

3. 就職・進路指導計画

① 学生個々の進路に関する詳細な情報把握と個別指導を徹底して、就職率100%を達成する。

→ キャリアサポートセンター職員が週1回、岡山駅前キャンパスで就職支援・相談を行っており、就職支援・相談の進捗状況内容はキャリアサポートセンター職員と専攻教員で共有することができた。春学期早期に卒業予定者12人全員に対して卒業後の進路希望について面談を行い、全ての学生が卒業後は就職を希望した。

短期大学部の最後の卒業生として、高い意識をもって就職活動を行い、また、短期大学部の教員との連携のもと、12名全員の就職が決定し、100%の就職率を達成することができた。

② 総合演習を活用し充実したキャリア支援を行う。

→ 年間を通じて開講する総合演習の中で、春学期 5 コマ、秋学期 1 コマをキャリア支援としてキャリアサポートセンターが担当し、「履歴書と面接」「美容業界で働く為に I・II」「マナー（身だしなみ）」「働くことの意味」など、主に外部講師によるセミナーを開催した。その他、専攻が担当するコマについても必要に応じてキャリアサポートセンター職員が同席し支援に当たった。

③ 学生が就職を希望する事業所の開拓に取り組む。

→ 個別面談において学生が興味を示した事業所へは積極的にコンタクトを取り、就職活動における情報収集を行った。その情報を学生に提供するとともに、後の就職活動については学生が自発的に行えるよう導いた。また、ミスマッチを防ぐため会社説明会や店舗見学会には必ず参加するよう指導し、見学会が予定されていない場合は、個別の店舗見学の依頼、見学時のマナー、挨拶・お礼等について重点的に指導した。

学内単独会社説明会も学生が希望する業種のを 3 回開催することができた。

4. その他の事業

① 卒業生と在学生の絆となるガイダンスを 2 回開催（6 月,11 月）する。

→ OG ガイダンスを 2 回開催。

第 1 回平成 27 年 6 月 29 日（月）16:50～18:20

「メディカル・エステティシヤンの仕事」

講師：平成 19 年卒業生

第 2 回平成 27 年 11 月 30 日（月）15:10～16:40 予定

「化粧品業界における美容スタッフの仕事」

講師：平成 24 年卒業生

② 保護者に日頃の学習成果を発表する場としてオープンクラスデーを 2 回開催（7 月,1 月）する。

→ オープンクラスデーを 2 回開催

第 1 回 平成 27 年 7 月 20 日(月) 15:10～18:20

内容 ①フェイシャルエステティック

②メイク&ヘアアレンジ

第 2 回 平成 28 年 1 月 28 日(木) 13:30～16:40 予定

内容 ①メディカルエステを中心としたトータル・エステティック

②メイク&ヘアアレンジ

④ 学園祭・スポーツ大会等のイベントに積極的に参加できるような企画をする。

→ 高梁キャンパスでのスポーツ大会（5 月 9 日・10 日開催）に参加し交流を行った。

また、高梁キャンパスでの学園祭（10 月 31 日、11 月 1 日開催）に学生が参加し学科ブースを設け、オイルマッサージ等の実演を行った。

順正高等看護福祉専門学校

I. 平成27年度教育方針

『県下一のオンリーワンの看護福祉専門学校を目指す』を目標に、「入学者全員を卒業させ、全員を国家試験に合格、資格を取得させる」ということを使命と考え努力する。

また、介護福祉学科と看護学科の一体化を図りながら学生の満足度の向上に努める。

1. 学生募集と入学生増加へ向けて、定員確保(看護・介護)を目指す。

具体的目標としては、

- (1) オープンキャンパスに積極的に取り組む。
- (2) ホームページの更新を図り充実した内容とする。
- (3) 卒業生や在校生と共に彼らの出身校へ働きかけ（できれば出身校での経験談披露など）、本校への希望を募ると共に順正学園の設置校への入学を勧める。
- (4) 一度つながりができた受験生とは連絡を取り、本校からの学校・学園ニュース等を送付する。
- (5) 高梁・新見地区など近隣の病院・医院へと働きかけ、特に地元病院の連携調印した医療機関への働きかけ（活用）を図ることで、地域に貢献する。
- (6) AO入試や社会人入試の周知を図り、受験希望者を増やす。

2. 中途退学者を出さないように、学生の状況に注意しながら細やかな学生指導を行う。今年目標値0人。少なくとも在校生数に対する比率において、前年度を下回り、できれば1桁台を目指す。

対策としては、

- (1) 中途退学者の傾向を捉える。
- (2) 講義や実習を3回もしくは3日欠席した場合には、すぐに保護者へ連絡を取り対応する。学生の生活状況（態度）からも適切な指導を行う。
- (3) 精神的に脆弱な学生や学力低迷の学生の保護者との連絡は、早期から取り、事態に対処できるようにする。
- (4) 危機感や不安感を緩和し、実際に努力することで、達成感を持たせ、学生の自信を付ける。（意欲・やる気の醸成を図る）。

3. 看護師国家試験の合格率向上に向けて、学年毎に具体的目標を掲げ、達成に向けて日々努力する。合格率の目標は全国平均以上で100%を目指す。

- (1) 各学年運営について、前期、後期の初めに、指導方針を実践するための具体的な方法を示す。
- (2) 指導方法を学生の状況に合わせて、評価修正しながら実行し、工夫する。
- (3) 学生の情緒的な安定を図り、学習意欲を徹底的に支援する。

4. 教職員の学生を大切に思う心温かい面倒見のよさを実感し、在校生が自ら後輩に是非本校を受験するよう勧めてくれる学校になるよう努力する。

- (1) 面倒見のよい指導の継続
- (2) 担任制とチューター制の一層の充実

5. 地元地域との連携として、今年も近隣の医療機関や福祉施設の病院長、施設長推薦入学枠を維持する。地元医療機関や医師会と奨学金制度の設立を工夫するように努力し、看護協会の高梁支部の中で貢献できるように努力する。岡山県の看護師・介護福祉士不足問題等を解決するための事業協力をできるだけ行う。

II. 各事業の概要

1. 教育関係

- (1) 関係者間で連絡を密にし、学生の状況把握に努める。その過程に於いて、成績や態度面の気になる学生については、個別面接を行うと共に、保護者へも連絡を早期から取り、対応していく。

→ 看護学科は、関係者相互に連絡を取り合い、学生の状況把握に努め、早期に対応できるように努力した。問題が懸念される場合には、事実確認に努めるとともに、状況によっては保護者に報告し対応した。

介護福祉学科では、学生が不安を感じないように、学年担当を中心としながら各チューターがサポートする形で学生指導をきめ細やかに行った。

- (2) 問題が解決しない場合は、個別指導の担当者を変更するなど、問題の事態ができるだけよい方向で解決できるように、校長、副校長、担任等関係者が協力しながら、継続的に指導する。

→ 関係者相互の連携を密にとり、問題解決に向けて継続的に努力している。役職会議などに問題内容を提示し検討し早期に対応した。

- (3) 国家試験合格に向けて、基礎学力強化を図るために、各学生・学年の状況把握に常に努め、早期に対応する。また、学習環境を整えると共に指導方法の工夫を試みる。定期試験結果や模擬試験においても結果と共に、学生の状況を文書にして保護者に郵送する。現状をお伝えし、必要に応じて保護者と協力体制をとりながら、指導にあたる。

→ 授業や実習内容の充実を図るために、学習目標に満たない場合は、単位認定に向け学習指導を行った。

【看護学科】

<1年次に学年で取り組んでいる内容>

入学2日目に、「入学前サポートプログラム」で配布した小冊子から、国語・算数の応用問題を出題した。その結果、特に国語力（読解力）の強化を図るため以下の取り組みを実施した。

1. 前期：小グループ制による解剖生理学の復習

- ・空きコマと5限を活用し、小グループ制（4人以内）による学習会を実施した。
⇒1ヶ月に最低4回以上実施し、毎回教員が巡回指導した。
- ・解剖生理学担当の外来講師と連携（小テストの実施時期・回数・範囲・参考書の選定）しながら指導にあたった。

2. 生活習慣の確立

- ・毎月1回月末に前期個人目標と学習経過記録を提出させ、目標達成に向けた学習習慣の確立に繋がるよう把握し、チューター・担任が指導した。

- ・個人目標達成のために毎月1回ポートフォリオ評価を行い、学生の達成感や自尊心・自己効力感を高め、次の課題を見出して自分の学習活動をコントロールする能力を育成している。

3. 学習環境を整える

- ・9時25分には着席させ、授業の準備をさせ、必要な伝達を行っている。
- ・日直にも責任を持たせながら、毎日下校前、各自で机の整理整頓の実施状況の確認と指導及び机周りや教室全体の美化に努めた。

4. 模擬試験の実施

平成27年12月19日予定 (Ask SEED ブロック別模試 人体の構造と機能)

平成28年3月16日(水) 予定 (Ask SEED ブロック別模試 基礎看護技術)

5. 学力対策

夏季学力対策：8月10日(月)・8月11日(火)

成績別に解剖生理学を中心とし強化した。

冬季学力対策：12月24日～26日

前期の未認定教科を中心に強化し、試験を行った。

<2年次に学年で取り組んでいる内容>

1. 学力対策

- ・7月には、基礎看護学実習Ⅲを控えているため、4月から実習の準備と実習関連の専門分野の強化を図ることを目的にした。
- ・教員が問題を作成し、国家試験対策委員会を中心に定期的な学力対策(小テスト)を1～2回/月実施した。
内容は、必修レベルの基礎看護技術(フィジカルアセスメントを中心)などの小テストで、正常と異常の判断ができ、検査値や検査の示す意味・看護技術の留意事項の確認をした。
目標得点率は70%で、60～70%以下の学生は再度テストを実施し、50%以下の学生は見直しのノート提出後、再度テストを実施した。
ノートの提出は、テストを実施した週末の金曜日の朝とした。
全体の平均得点率は、63.8%で、ノート提出後(試験結果50%以下の学生)の再テストでは82%の得点率であった。
- ・夏季学力対策：8月24日(月)～8月31日(月)
未認定教科の取得に向けた対策で、学生主体で、学習計画立案・評価しながら、各自目的意識を持って取り組めるようにした。

2. 学習習慣の確立

- ・定期的な小テスト実施に向けて、教員が内容や問題を提示していたが、1月からの領域実習に向けて、国試問題集(三輪出版)を購入。
その内容を実習に絡ませ、計画的に実施し学力の強化とともに、学習する習慣を身に付けさせる狙いがある。

3. 模擬試験の実施

- ①平成27年6月4日(木) 医教 必修問題(50問)
- ②平成27年7月5日(水) 医教 必修問題(100問)
- ③平成28年1月6日(水) 医教 必修問題(50問)
- ④平成27年3月22日(火) メデイカ 必修問題(100問)

その他

12月7日に3年次生の看護研究発表会に参加し、臨地実習への動機付けと学習の必要性を学ぶ機会をもった。

< 3年次に学年で取り組んでいる内容 >

1. 必修対策

- ・実習終了後より、毎朝、全員登校し 9 時 15 分から 10 問テストを実施し、短期記憶から長期記憶にとどめられるように反復とトレーニングを実施している。

2. 学習習慣の確立&学力強化

- ・実習終了後、毎日小テストを実施している。
- ・朝から遅刻せずに授業に臨める態勢をとることも目的の一つである。
- ・レコーディング法（学習経過記録）を実施している。自己の学習計画を立案し、実施状況を分析し学習時間の確保と学習内容の充実が目的で実施している。毎日、教員がチェックし、状況に応じて個別指導している。

3. 模擬試験の実施

第1回：5月1日（金）学研

狙い 240問 300点の模擬試験を体験する。

結果から自己の弱点を把握し、基礎学力を高める。また学習の必要性を感じ、実習を努力できるように意識付ける。

第2回：8月3日（月）メデイカコンクール

狙い 実習が半分終了し、自己の課題分析を行う。また実習のない時期でもあるため、計画的に実習が進むように意識付けをする。

第3回：9月25日（金）学研

狙い 基礎学力の定着度の確認とアセスメント力・応用力・判断力が実習でどのくらい身につけているか、自己分析する。

第4回：11月5日（木）学研 必修問題

狙い 基礎学力の振り返りと現時点での自己の弱点の把握をし、国家試験対策に主体的に取り組めるように意識付けをする。

第5回：12月22日（金）学研

狙い 国家試験前の実力確認と冬季休業中の学習課題を明確にする。自己の学習を計画的に過ごす材料とする。受験者が多いこの時期に実施することで、全国の受験生の状況を把握する。

第6回：1月9日（土）医教 予想問題

狙い 実力確認と予想問題を解き、105回目の試験の動向に合わせた問題に慣れる。

第7回：1月29日（金）メデイカコンクール

狙い 実力確認と予想問題を解き、105回目の試験の動向に合わせた問題に慣れる。

4. 学力対策

国家試験に向けて、看護学に必要な基礎知識を習得し、不足している知識の補充と強化をはかるために、学力強化対策を冬期（12月25日）に行った。

< その他 1～3年 >

1. 学習面と精神面については、継続的なチューターによる支援を行った。
学習面と精神面を中心に個別に面接をし、指導を徹底。また、状況により担任や教科担当者と密に連絡をとり、必要時会議で検討し、指導を継続した。
2. 閲覧室の PC に看護師国家試験問題の Web を導入し、学生が自由に自己学習できる体制を整え、活用した。
3. 成績や態度面において気になる学生については、随時保護者や、本人、教員が共通認識のもとで本人の問題が解決できるように話し合いの場を設けて積極的に関わった。
副校長以下、全教員がチューターとなり、学生を 15～20 人程度受け持ち、学習面と精神面を

中心に個別に面接をし、状況により担任や教科担当者、校長、副校長と調整し、必要時、早期に保護者に連絡をとり対応してきた。

第 105 回 看護師国家試験 合格率：96.5%

【介護福祉学科】

- ・2年：共通試験に向けた学力向上のため毎週金曜日に国家試験対策の授業を行った。過去問題を用いて試験を実施し、理解できない科目を中心に授業を組み立てた。
- ・1年：文章力に難のある学生が多く、書けない、読めない、理解できないことを克服できるように全員に対し国語表現の授業（8コマ）を取り入れた。また、小テストを多く取り入れ、学習に向かう姿勢が構築できるように努め、声かけとオフィスアワーを使って個別指導を積極的に行った。

(4) 教育効果を高めるために、毎年次の会議等を実施する。

平成 27 年度実施 5/8 介護学科実習指導者会議
 5/22 講師連絡会議（看護・介護福祉学科合同）
 11/27 看護学科の臨地実習指導会議

→ 講師連絡会議では、外来講師間と本校教員の情報交換を図ると共に、対策についての討議を行いました。

岡山大学病院、岡山精神科医療センター、倉敷成人病センター、岡山中央病院、吉備高原医療リハビリテーションセンター、成羽病院との臨地実習会議では、学生の状況、指導の在り方等について意見交換した。

前述の会議等を開催することで、病院・施設側の担当者間とも情報交換ができ、教育への相乗効果を図ることに努めた。

(5) 入学後の学校での学習や生活がスムーズに過ごせるように、入学前ガイダンスを計画的に実施する。

→ 看護学科では、入学前ガイダンスとして、平成 28 年度入学予定者とその保護者を対象に平成 28 年 2 月 6 日（土）・3 月 5 日（土）に実施した。

併せて入学前に課題などを課すことで、入学後の学習並びに学生生活がスムーズに進むよう、担当者を決め計画している。

2. 研究関係

(1) 看護教育評価を行い、学術コンファレンスへの投稿等へも取り組む努力をする。

→ 看護教育評価をまとめ、学術コンファレンスへの投稿ができるよう努めたいが、現在のところ、困難な状況である。

- (2) 学園内の研究発表だけでなく、他の学会や研修会参加など自己の看護・介護の教育力が向上するように意識的に、自己研鑽に努める。

→ 〈看護学科〉

授業・実習に支障が生じないように配慮することで、研修会等に参加できにくい状況にあるが、できるだけ学会や研修会に参加するよう呼びかけ、各教員が1回以上研修会に参加して教育力向上に向け自己研鑽に努めた。

国試対策セミナー、各領域の学会、看護協会主催の教員継続研修会、看護学校協議会主催の学会等へ教員が参加している。

〈介護福祉学科〉

介護福祉学会での発表を来年度行う為に、卒業生と共に研究活動を継続している。教員として学生の個性に応じた指導を行っていく重要性を再認識すると共に、自己の教育力の向上に努めている。今年度の養成校協議会中四国ブロック研修会(9/10-11)に全員参加した。

3. 就職・進路指導計画

- (1) 介護福祉学科2年生、看護学科3年生対象に進路ガイダンスを数回実施し、自分の将来の目標、適性など考えて進路の選択ができるように進めていく。

→ 〈看護学科〉

計画的に進路ガイダンスを実施している。例年通り、岡山県看護協会ナースセンターによる「看護師の就職にあたっての心構え」等の講演を実施することで、看護師としての就職の意識付けを行っている。

さらに、人物重視の就職試験に備えて、「自己表現の仕方」、「社会的マナー」等のより具体的な演習を取り入れ、自信を持って面接に臨めるよう対策を講じている。

〈介護福祉学科〉

福祉関係説明会に備え、進路ガイダンス「基本的マナー」、「自己分析・表現」と、本校進路担当者との個別面談を行った。さらに、面接練習を重ねたことで、自己表現能力を高めることができた。

また、看護学科への進学者を2名(フレックス制度)輩出した。

- (2) 1,2年次生には折りに触れ就職状況や先輩の活動等を話し、最終学年に進路を具体的に考えるための導入を行う。

→ 卒業生の来校時には、できるだけ学生に話をしていただく場を設け、メッセージの紹介をした。今年度は、戴帽式後の記念講演として、各分野で活躍されている卒業生2名を招聘し、看護学生の意識の高揚に結びつけるためのお話しをしていただいた。

- (3) 看護学科では、医療の現場で活躍している卒業生を学校に招き、進路を決定するまでの経緯や、医療現場の状況を話してもらおう場を持つことで、看護職や就職に対する意識の向上を図っていく。

→ 3年次生に看護協会の方を招いて、看護協会の役割や就職先の選択方法などのガイダンスを5月23日に実施した。

看護協会からの就職に関するガイダンスや病院代表者による病院紹介を行い、進路選択・決定に向けて参考になるようにしている。

また、病院紹介では、できるだけ、卒業生の同行、又はメッセージ（近況報告）を合わせてお願いし、就職選択の一助となるよう努めた。

- (4) 介護福祉学科では、社会福祉現場で活躍されている施設長あるいは介護福祉士の方に専門職として就職する上での心構え、活動方法、現状等を話してもらい、自分に合った就職活動ができるよう支援する。

→ 11月14日、キャリア形成セミナーにおいて、認知症への対応について、現場介護職員に求められるレベルのことを学ばせるため学生に参加させた。

2月3日に介護福祉士会への入会説明会を行った。説明会に引き続いて、有資格者として就職した後の心構えを中心にしたセミナーを実施した。

- (5) 学生が就職した病院或いは社会福祉施設との関係を良好に維持できるよう、求人に来られた際には丁寧に対応していく。また、卒業生がどのような状況で勤務しているか等、病院等を訪問し話を聞かせて頂く機会を積極的に作り、今後の就職指導に活かしていく。

→ 卒業生の勤務状況等をうかがうとともに、学生が奨学金などの給付を受けている病院の方が来られた場合は、特に関係者が対応している。来訪予約のない求人来訪者にも丁寧な対応を心がけている。

- (5) 本学園グループが主催する就職懇談会（大阪・広島・岡山）に参加し、各病院並びに社会福祉施設と学校とのつながりを大切にする。

→ 就職懇談会には、できるだけ担当者が出席できるよう配置し、細やかな対応にこころがけている。また、病院・社会福祉施設等から問合せが入った場合にも、協力的な態度で丁寧に対応した。

4. その他の事業

- (1) 順正高等看護福祉専門学校の教室などの設備整備を順次実施し、教育環境の整備を図る。

→ 教室等設備と教育機器の現況把握に努め、教室の視聴覚機器を刷新した。学生からの要望もあり、渡り廊下に屋根を取り付けた。

- (2) 順正高等看護福祉専門学校たかはし寮の老朽化が進んでいることから、段階的に住環境整備に取り組む。

→ 各室備品が老朽化し、不具合や故障が相次いだ。調理器具（鍋等）の更新、トイレ洋式化（1箇所）、壁紙修理、ベッド補修等を順次行った。

九州保健福祉大学総合医療専門学校

I. 平成 27 年度教育方針

【 学校全体の目標 】

1. ホームページを利用して広報活動を積極的展開する。
2. 受験生の 20%アップを目指す。
3. 定員充足率 100%を維持する。
4. 教員は社会貢献にも積極的に参加する。
5. 卒業生の国家試験合格률을全国平均超えに維持する。

II. 各事業の概要

1. 教育関係

(1) 看護学科

【今年度の目標】

1. 入学定員充足率 100%以上を維持する。
2. マンネリ教育を改善する。
3. 国家試験合格率 100%を目指す。
4. 社会貢献に積極的に参加する。

【具体的な手立て】

1. 入学定員充足率 100%以上を維持する。
 - 1) 立地を生かした学習環境改善（講演、学生との交流の機会を増等）に力を注ぎ、社会的評価（在校生、卒業生含む）を高める。
 - 2) 県内の高校及び実習施設に本校看護学科を理解してもらう機会（県内説明会）を設け、県内競合校より受験者の獲得率を高める。
- 社会的評価は高まっている。入学者数は定員の 1 割増しとなった。
2. マンネリ教育を改善する。
 - 1) 領域担当教員は教育内容(各々の講義及び領域別実習)を精選し、マンネリ教育改善のための改善計画を 1 つ以上立案し自ら実践する。
 - 2) 学内で学んだ知識や技術を実践の場で生かした教育を実践する。
 - 3) 看護教育者としての自覚を高め、自己の研究課題を見出し、より良い教育改善に努力する。
 - 4) 教育内容（マトリックス作成）改善に取り組み、実践する。
 - 5) 領域別の業者模試の偏差値や授業評価の分析結果を各自が受けとめ、マンネリ教育の改善に努める。

→ 研修で学んだことを着実に講義や実習に活かすことでマンネリ教育の改善に繋げた。

3. 国家試験合格率 100%を目指す。

- 1) 弱点強化を図り、学生個々の能力に応じた指導を徹底する。
- 2) 学年の偏差値が年間を通して全国平均を上回るよう指導し、7年連続国家試験合格率 100%を目指す。

→ 学生個々の能力に応じた指導を実施した結果、7年連続国家試験合格率 100%を達成できた。今回の国試は合格基準値が大幅に下がったが、本校は同基準値を 13.3%上回った。

4. 社会貢献活動に積極的に参加する。

→ 地域における社会貢献活動（社会福祉協議会主催のボランティア、県内高校主催のキッズビジネスタウン）に積極的に参加している。

(2) 鍼灸学科

【今年度の目標】

1. 新卒者国家試験合格率を全国平均以上にする。
2. 鍼灸学科の認知度を高め、入学者の定員充足を目指す。

【具体的な手だて】

1. 新卒者国家試験合格率を全国平均以上にする。

- 1) 対象学生を早期に決定し、学生毎に受験指導担当教員を配置し受験指導にあたる。

→ 夏期休暇前の模擬試験の結果をもとに個別指導すべき学生と指導教員を決め、約半年間受験指導を行った結果、はり師はわずかに全国平均に及ばなかったが、きゅう師は全国平均を上回った。

2. 鍼灸学科の認知度を高め、入学者の定員充足を目指す。

- 1) ブログ等による鍼灸学科の情報発信に努める。

→ ほぼ2週に1回のペースでブログを更新し、鍼灸学科に関わる内容を中心に情報発信に努めた。

- 2) 事務局と連携し、鍼灸学科の啓発に努める。

→ 5月、6月、11月に高校、中学校の進路説明会に教員を派遣した。6月から9月に夜間見学会を5回、10月11月、12月に日曜見学会をそれぞれ1回ずつ実施した。宮崎県専各連主催のお仕事フェアに学科紹介ブースを設け鍼灸のPRを行った。7月および1月に本校来校の高校生を対象に学科の説明を行った。

2. 事務関係

(1) 事務室

【今年度の目標】

1. 入学定員充足率 100%を維持する。
2. 受験生数 20%増を目標に施策を立案し実施する。
3. ホームページの効果的な利用など広報活動を積極的に展開する。
4. 適正な予算執行に努める。
5. 両学科の国家試験対策を支援する。

【具体的な手だて】

1. 入学定員充足率 100%を維持する。
 - 看護学科は定員を充足したが、鍼灸学科は未達だった。
 - 1) 社会人向け広報の充実(鍼灸学科)に努める。
 - 社会人が参加しやすい夜間見学会及び日曜見学会の開催数を増やした。
 - 2) 教職員の連携を強化し、教職員全員で広報する。
 - 教職員一丸となって実施した。
 - 3) 教育的イベント等に積極的に参加し両学科をアピールする。
 - 進路説明会、就職説明会、宮崎県専修学校各種学校連合会ワーキングスタディ等に積極的に参加した。
2. 志願者数 20%増を目標に施策を立案し実施する。
 - 志願者数は対前年比約 12%増となった。
 - 1) 学校見学会の改善
 - 保護者向けのコーナーを充実させた。
 - 2) 学園入試広報室と連携し高校訪問回数を増加させる。
 - きめ細かい高校訪問を実施した。
3. ホームページの効果的な利用など広報活動を積極的に展開する。
 - 1) 広報に関するコンテンツを改善する。
 - 多くの写真を入れ替るなど改善させた。

2) 学科紹介ブログ等ホームページ上の情報発信の頻度を高める。

→ 鍼灸学科は比較的短いサイクルでブログを更新した。

3) 新聞等紙媒体での広報展開

→ 予算内で効率的に実施した。

4. 適正な予算執行に努める。

1) 経費の削減

→ 削減に努めた。

2) コスト意識の醸成に努める。電力使用、紙の使用枚数等

→ 毎月の教職員会議で対前年同期と比較した電力使用量を公表し、コスト削減に対する意識の醸成に努めた。

5. 両学科の国家試験対策を支援する。

1) 両学科と学生情報を共有するとともに、積極的な窓口指導を実施する。

→ 窓口指導を徹底した。看護学科の国試合格率は7年連続100%を達成し、はり師は全国平均に若干未達だったが、きゅう師は全国平均を超えた。